

1. その翌日、ヨハネは自分のほうにイエスが来られるのを見て言った。「見よ、世の罪を取り除く神の子羊。私が『私のあとから来る人がある。その方は私にまさる方である。私より先におられたからだ』と言ったのは、この方のことです。」
  - a. イスラエルの民はユダ部族の獅子（治める王）としてのメシアを期待していたが、ヨハネはこのメシアは神の子羊（犠牲のいけにえとして）来たことを知っていた。これによって人々はイエスが誰なのか/誰だったのか理解できなくなるが、イエスの目的を果たすためには必要なことであった。
  - b. イエスは政治的な権限を持って治めに来たのではなく霊的な支配権を持って子羊としてこの世に来てくださった。私たちは霊的なものよりも物質的なものが優先する文化の中に生きているが、聖書ははっきりと見えるものよりも見えないものが大切だといっている（2 コリント 4:18）。
  - c. イエスの目的は霊的に治めるためだったので神の子羊として来てくださった。罪は犠牲によってしか贖うことができない。イエスはこの世の罪を取り除くために来てくださった—力づくではなく十字架によって。
  
2. 「私もこの方を知りませんでした。しかし、この方がイスラエルに明らかにされるために、私は来て、水でバプテスマを授けているのです。」またヨハネは証言して言った。「御霊が鳩のように天から下って、この方の上にとどまられるのを私は見ました。」
  - a. ヨハネのバプテスマは悔い改めのしるしであり、またイエスをイスラエルに明らかにするためであった。神がその偉大な計画を示すため特別に定めるイベントがあるが、ヨハネのバプテスマもそのようなイベントの一つであった。ヨハネはただバプテスマが良いことだからという理由で授けていたわけではない。
  - b. ヨハネは従兄弟であったのでイエスの誕生については聞いていたはずだが、立証されたのは家族からの話によってではなく、ヨハネがイエスにバプテスマを授ける時にイエスの上に鳩のように御霊が下るのを見た時である。
  - c. 聖霊が下ったのは新しい時代の始まりを示した。このできごとは天が開かれた時代の始まりであった。イエスのバプテスマについての他の3つの記事は、イエスに御霊が下った時に天が開いたと記している。
  - d. 天が開いたのは神ご自身が王に油注ぎをするためであった。旧約時代は預言者たちが王の君臨の際に油注ぎをしたが、ここでは旧約の最後の預言者としてのヨハネではなく神ご自身が、それも油ではなく聖霊をもってイエスに油注ぎをした。ヨハネは旧約から新約へ移行する象徴である。
  
3. 「私もこの方を知りませんでした。しかし、水でバプテスマを授けさせるため私を遣わされた方が、私に言われました。『御霊がある方の上を下って、その上にとどまられるのがあなたに見えたなら、その方こそ、聖霊によってバプテスマを授ける方である。』私はそれを見たのです。それで、この方が神の子であると証言しているのです。」
  - a. ヨハネのバプテスマはただヨハネの思いによってではなく、神ご自身から遣わされて行なっていた。神はヨハネを遣わし、見つけるべきものを正確に指示している。私たちも気を付けないと神が示しているものではなくこの世に影響を受けてしまう。
  - b. イエスは十字架によってこの世の罪を取り除いてくださるだけでなく、聖霊のバプテスマを授けてくださる。聖霊によるバプテスマという概念はまったく新しいものであった。これ以前は個人的に油注ぎを受けることはあっても集団的にバプテスマを受けるということはなかった。
  - c. 聖霊は三位一体の神の3番目の形である。聖書を通して聖霊は神の民の生活と密接にかかわっている。神の民が素晴らしいことを行なったり神に栄光をささげたりするのはこの聖霊の力による。ヨハネの福音書を通して子なるイエスによって父なる神を知り、私たちの人生の中に聖霊を持つことの意味を学んでいこう。